

原子力施設等におけるトピックス
(令和6年1月8日～1月14日)

令和6年1月17日
原子力規制庁

○令和6年1月8日～1月14日の間に発生した以下の法令報告事象に該当する事案は、下表のとおり。

- 原子炉等規制法第62条の3又は放射性同位元素等規制法第31条の2に基づく報告事案(発生に係る報告に限る)

発表日	事業者名	事業所名	件名	備考
			該当なし	

○主要な原子力事業者(*)の原子力事業所内で令和6年1月8日～1月14日の間に発生した以下に該当する事案は、下表のとおり。

- 保安規定に定める運転上の制限(LCO)から逸脱した事案
- 原子炉等規制法第62条の3に基づく報告事項に該当しないが安全確保に関係する事案で、事業者がプレス公表したもの

*……原子力発電所を所有する電気事業者、日本原子力研究開発機構及び日本原燃株

発表日	事業者名	事業所名	件名	備考
			該当なし	

<参考> 海外の原子力施設におけるトピックス

該当なし

<その他>

- ・北陸電力株式会社 令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について(海面上の油膜の確認)(1月10日発表)
- ・北陸電力株式会社 令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について(赤住線の補修)(1月12, 13日発表)

(別添1)令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について(第7報)(事業者公表資料) P. 2～3

(別添2)令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について(事業者面談資料から抜粋) P. 4～6

(別添3)令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について(第8報)(事業者公表資料) P. 7～10

(別添4)令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について(第9報)(事業者公表資料) P. 11

令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について（第7報）2024年1月10日
北陸電力株式会社

志賀原子力発電所は、1、2号機とも定期検査により停止中であり、外部電源や必要な監視設備、冷却設備等については機能を確保しており、発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

1月7日、詳細な点検を進めている中で、2号機主変圧器周辺の側溝および道路においてわずかな油膜を確認しました。また、志賀原子力発電所前面の海面上に、油膜（約5m×10m）が浮いていることを確認し、直ちに、中和剤等による油膜の処理を行いました。

（1月7日にお知らせ済）

その後、2号機主変圧器周辺の側溝に油吸着マットを設置するとともに、毎日3回の側溝等の巡視による監視を行い、新たな油の発生がないことを確認しておりました。監視において新たな油の流出が確認されなかったことから、構内に降った雨水を排出するため、1月9日より雨水用の排水ゲートを開けておりましたが、本日12時頃、2号機主変圧器周辺の側溝に油膜が確認され、その下流側の確認により、前面の海面上に、油膜（約100m×30m、推定約6リットル）が浮いていることを確認しました。

速やかに排水ゲートを閉止するとともに、海岸部にオイルフェンスを設置しました。

現時点では、この油膜は、1月1日の地震時に漏えいした際に周囲に飛散した2号機主変圧器の絶縁油に由来する可能性があると考えておりますが、詳細については、現在確認中です。

なお、放射線管理区域内で油を貯蔵している箇所に設置している漏油検知器に異常はなく、今回の油膜は放射線管理区域内の油ではありません。

発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

本件につきましては石川県、志賀町等関係自治体および公設消防に連絡しています。

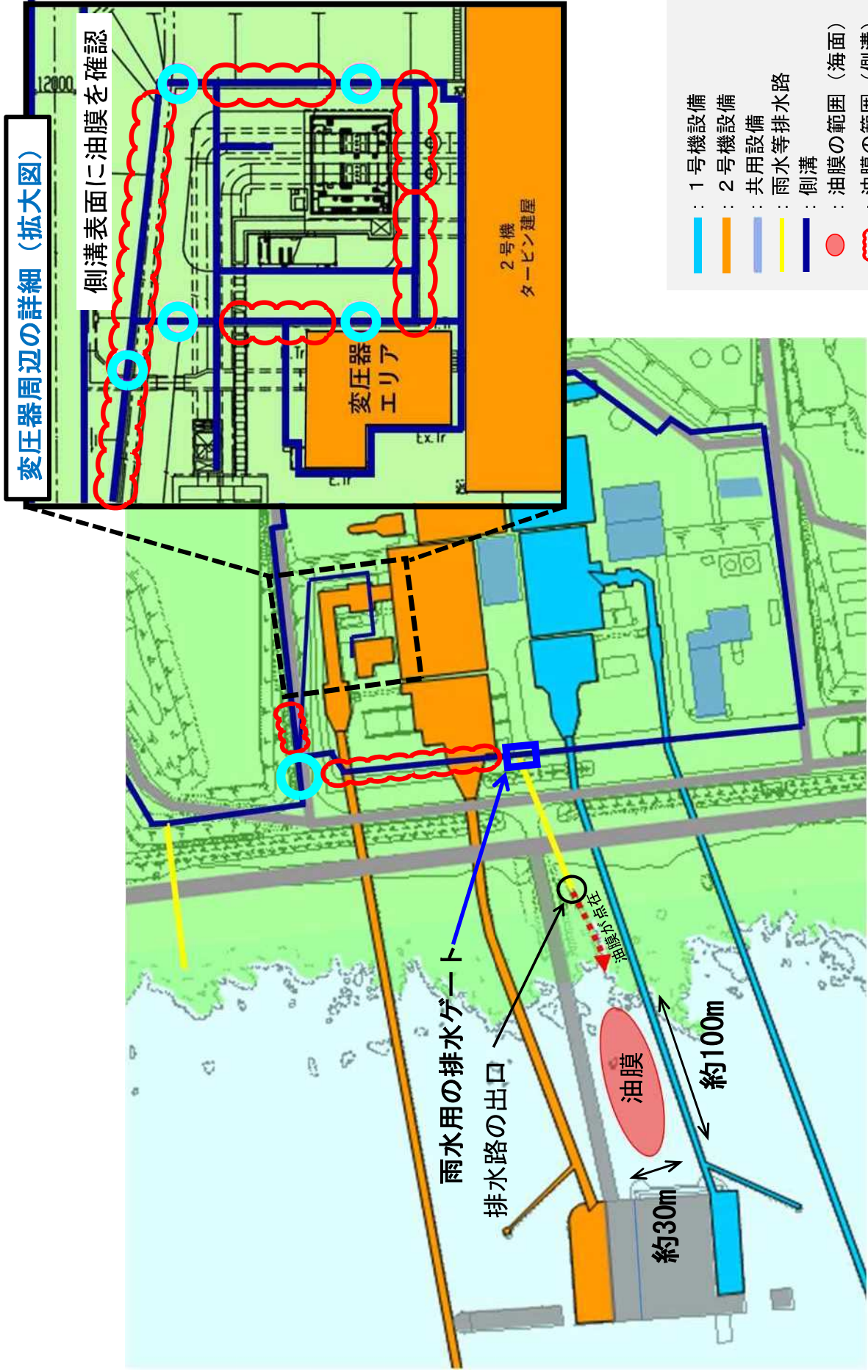
引き続き発電所設備全般の詳細な点検を継続し、発電所の安全確保に努めてまいります。今後、詳細な点検の過程で新たな不具合が確認された場合は、お知らせしてまいります。

添付資料1 海面および側溝の油膜の状況

以上

海面および側溝の油膜の状況

添付資料 1



海面および側溝の油膜の状況 (9)

別紙 2

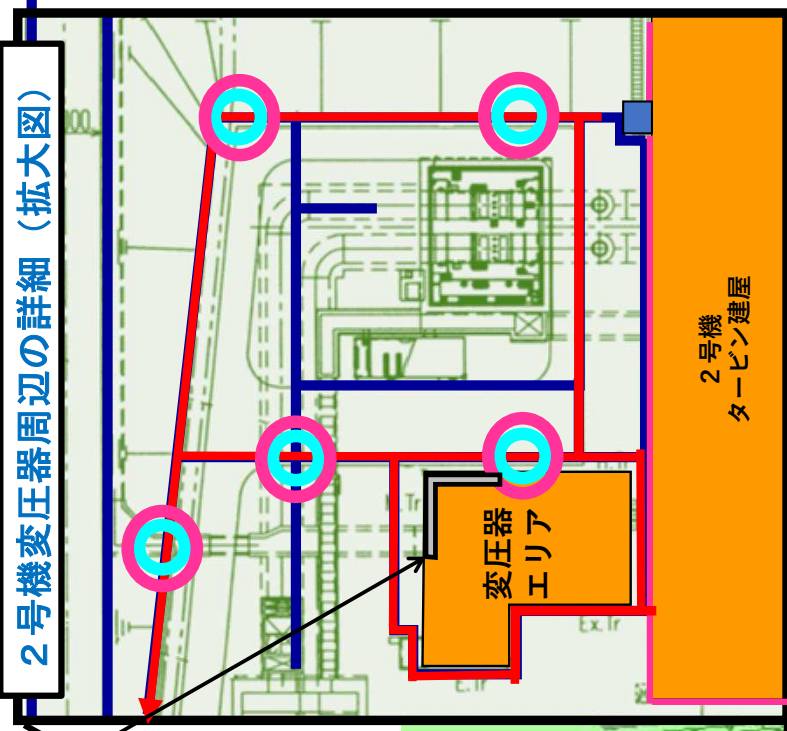
<1月14日>

・ 2号機主変圧器防油堤外の碎石に油の付着が確認されたため碎石の全量撤去作業中

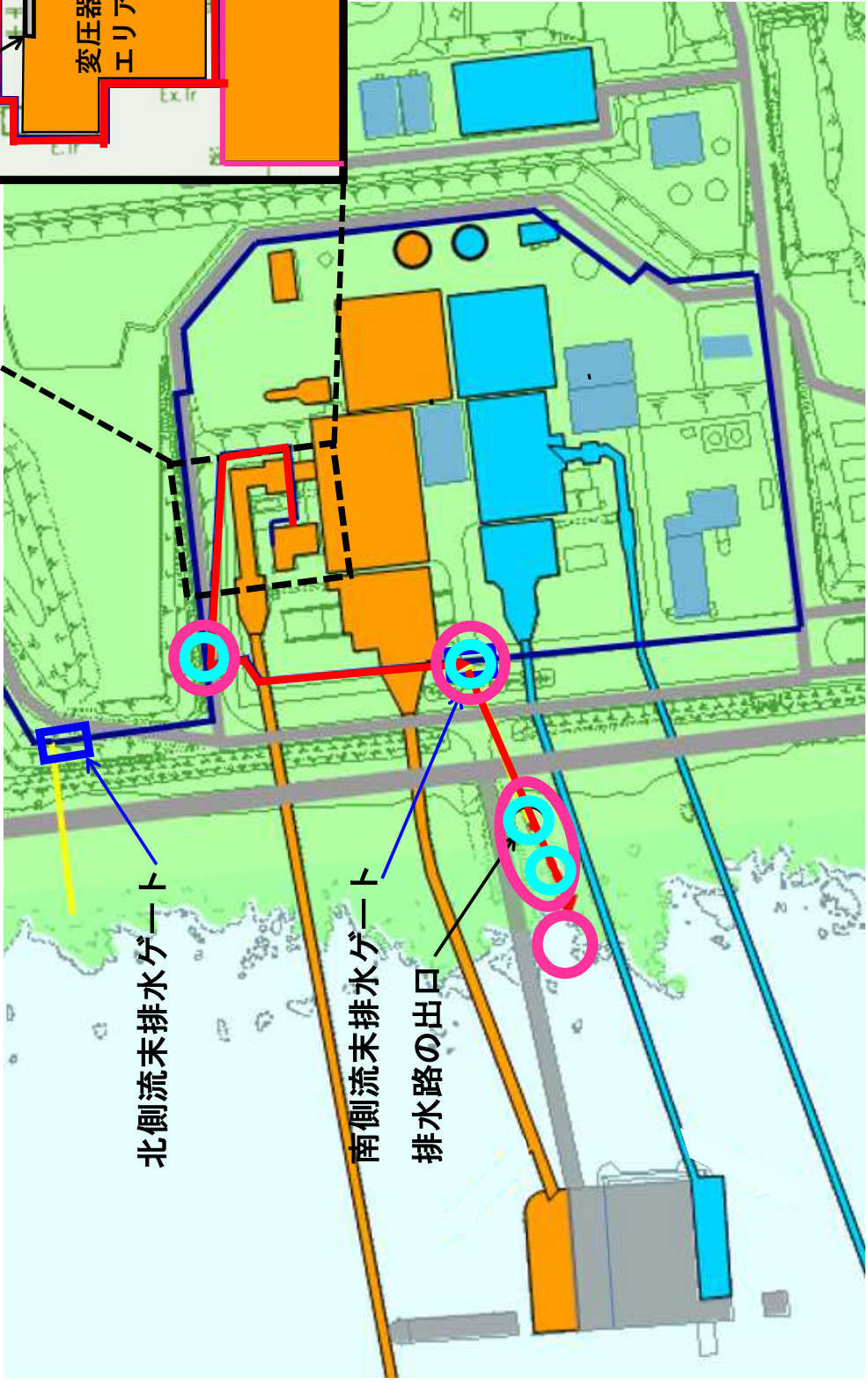
2号機主変圧器周辺の碎石撤去



碎石表面に油膜があり、水滴が付着している状態

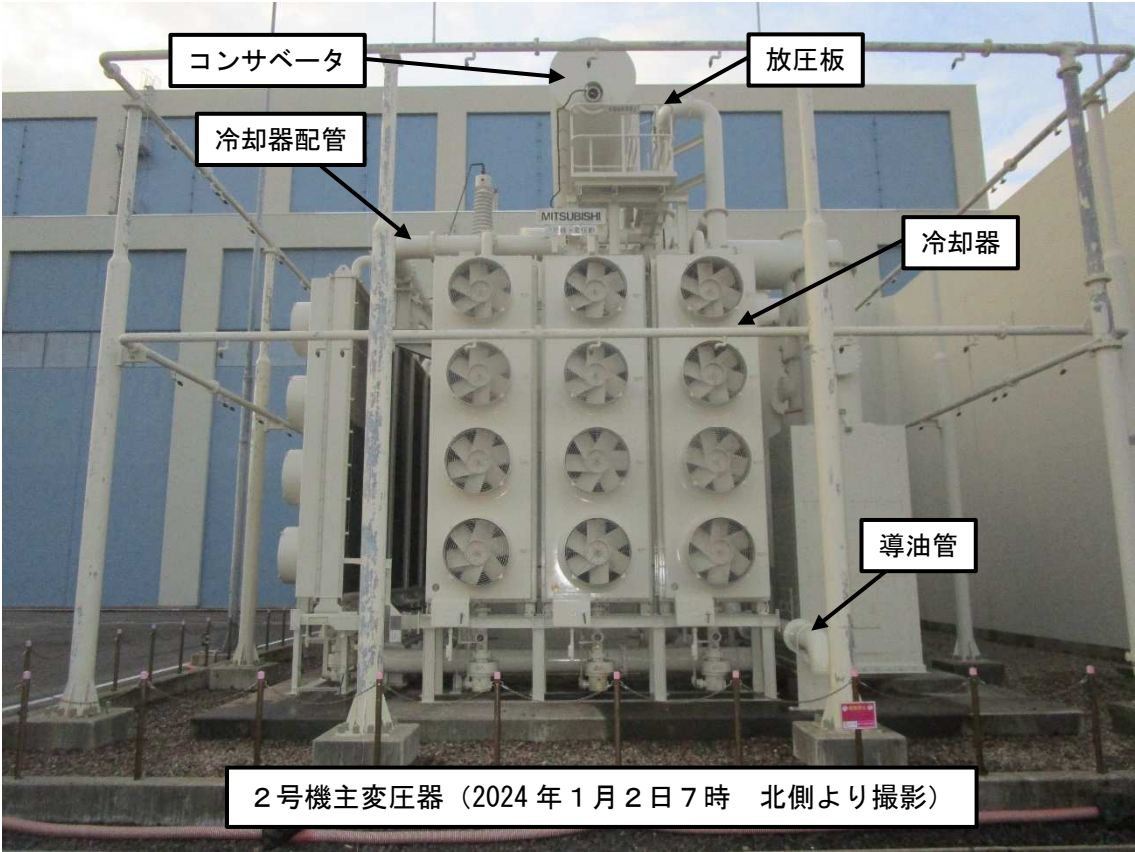
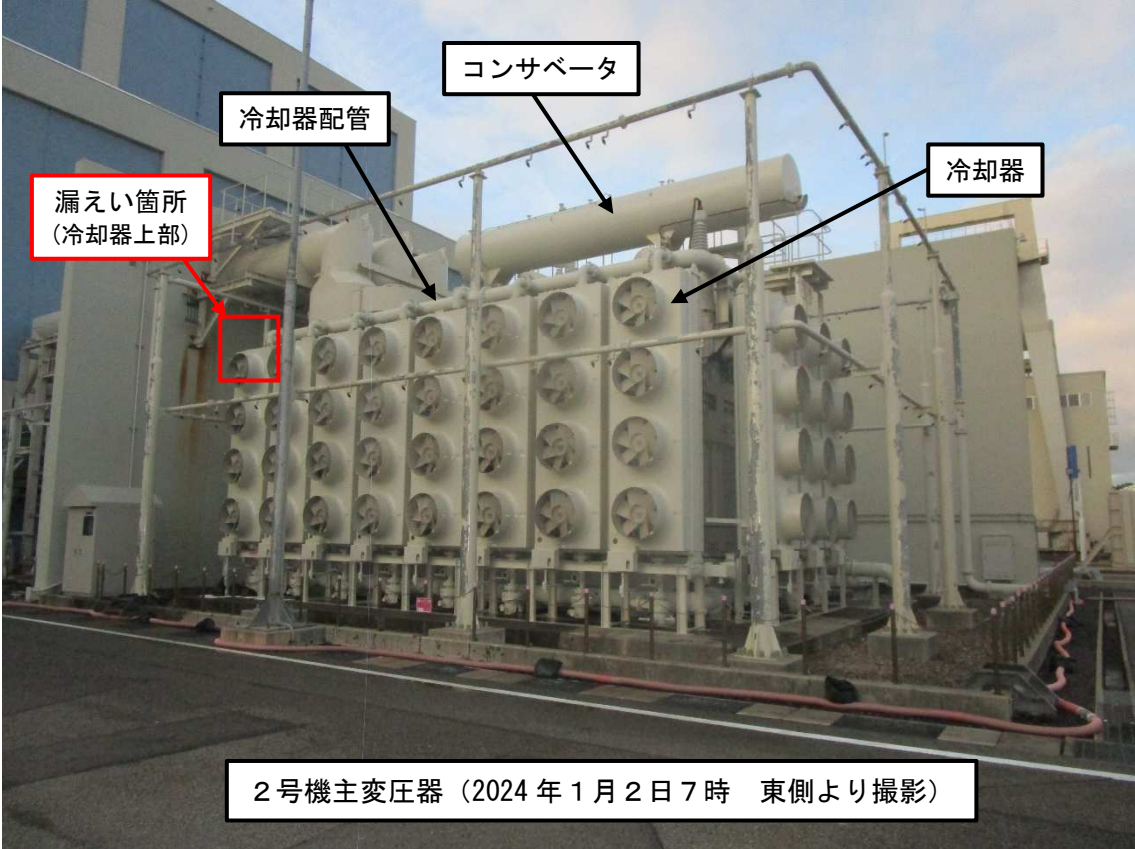


2号機変圧器周辺の詳細 (拡大図)

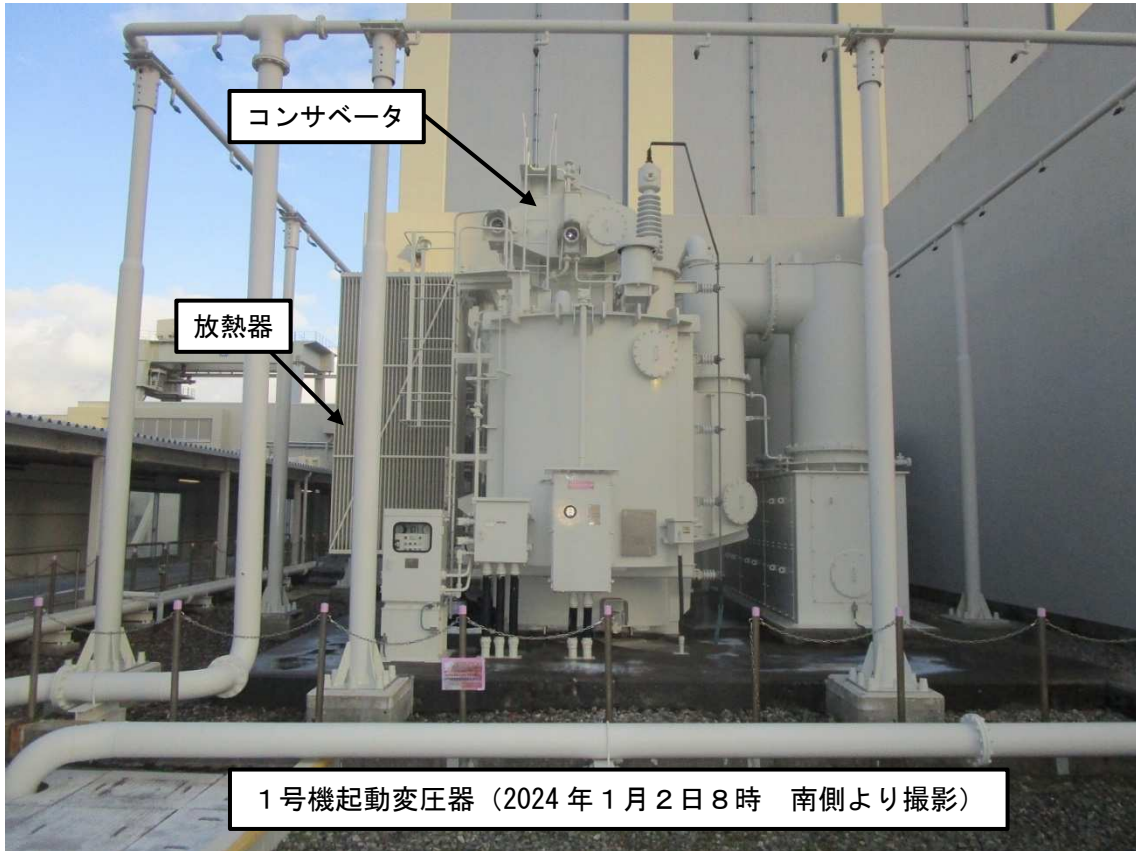
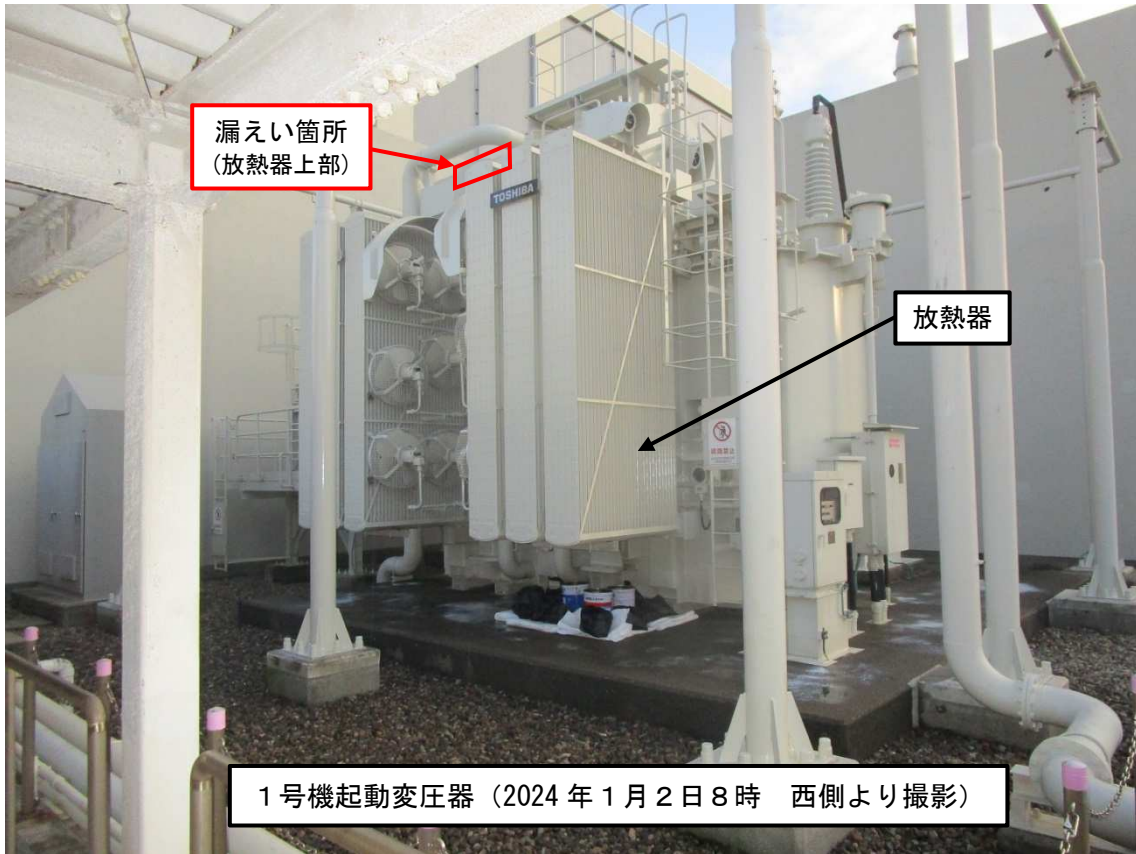


	: 1号機設備
	: 2号機設備
	: 共用設備
	: 排水路
	: 側溝
	: 油流出ルート
	: サブドレン
	: 油膜の範囲 (海面)
	: 油膜の範囲 (側溝)
	: 油吸着マットの設置箇所
	: 集水ピット
	: 監視場所

2号機主変圧器および1号機起動変圧器全体写真



2号機主変圧器および1号機起動変圧器全体写真



News Release

令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について（第8報）

2024年1月12日
北陸電力株式会社
北陸電力送配電株式会社

志賀原子力発電所は、1、2号機（定期検査により停止中）とも、外部電源や必要な監視設備、冷却設備および非常用電源等の機能を確保しており、原子炉施設の安全確保に問題は生じておりません。また、発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

志賀原子力発電所に送電する赤住線(66kV 1回線)において、絶縁用碍子の欠損（1箇所）、ジャンパ線（鉄塔前後の碍子装置間をつなぐ電線）の素線切れ（1箇所）が確認されましたが、現時点で送電線の機能に問題はなく、今後、適切な時期に1号機の受電を2号機からの所内電源融通により志賀原子力線（275kV 2回線）に切り替えたうえで補修および取替える予定としておりました。（1月9日お知らせ済）

今般、2号機の所内電源系統からの融通経路について健全性の確認を改めて行うとともに、欠損等のあった碍子およびジャンパ線の交換作業の準備が整ったため、今後、天候等の状況を踏まえながら、予防保全として赤住線を停止し欠損があった碍子等の交換作業を実施してまいります。

なお、作業に当たっては、非常用の電源として非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車を確保したうえで実施するとともに、余震等が発生した場合には速やかに対応できるようあらかじめ体制を整えたうえで行う予定です。

引き続き発電所設備全般の詳細な点検を継続し、発電所の安全確保に努めてまいります。今後、詳細な点検の過程で新たな不具合が確認された場合は、お知らせしてまいります。

添付資料1 赤住線の補修作業概要

添付資料2 1、2号機 所内電源系統概略図

以上

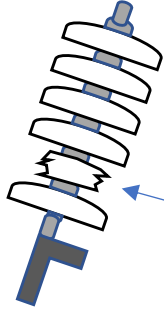
赤住線の補修作業概要

赤住線No.5鉄塔碍子補修

赤住線No.5鉄塔
碍子欠損(1個/6個)
(使用可能)

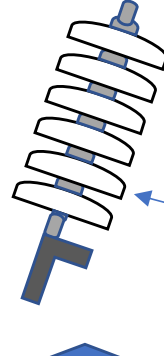


現状



欠損碍子を除去

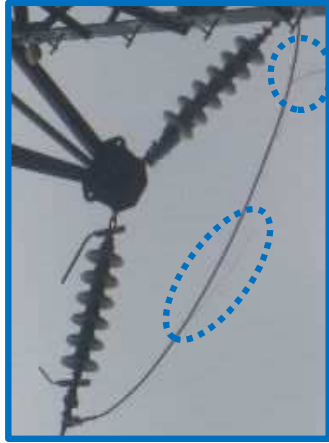
補修後



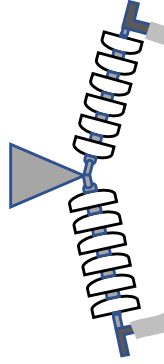
新しい碍子に取り替え

赤住線No.3鉄塔ジャンパ線補修

赤住線No.3鉄塔
ジャンパ線素線断線(5本/30本)
(使用可能)

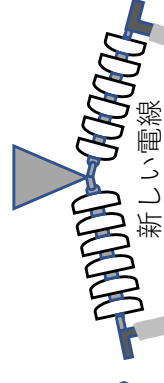


現状

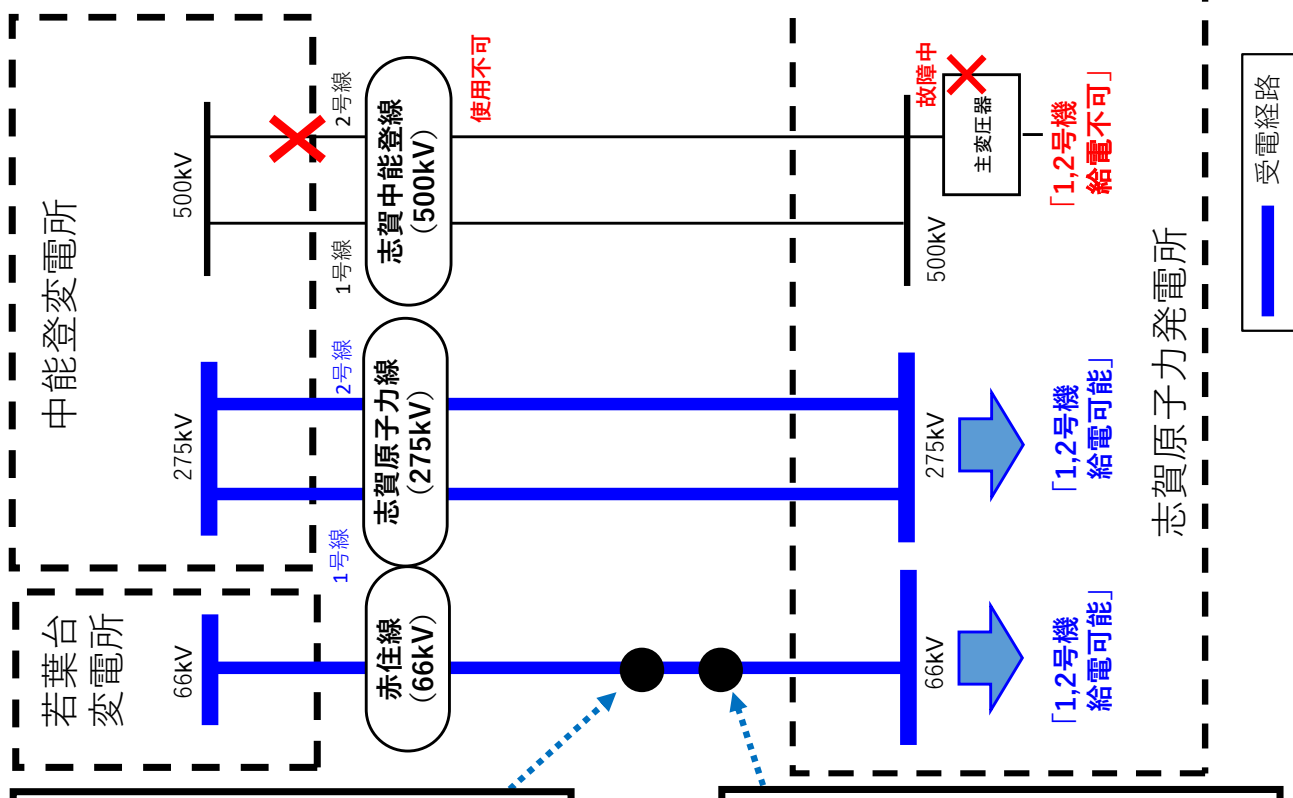


素線切れ箇所
電線を除去

補修後

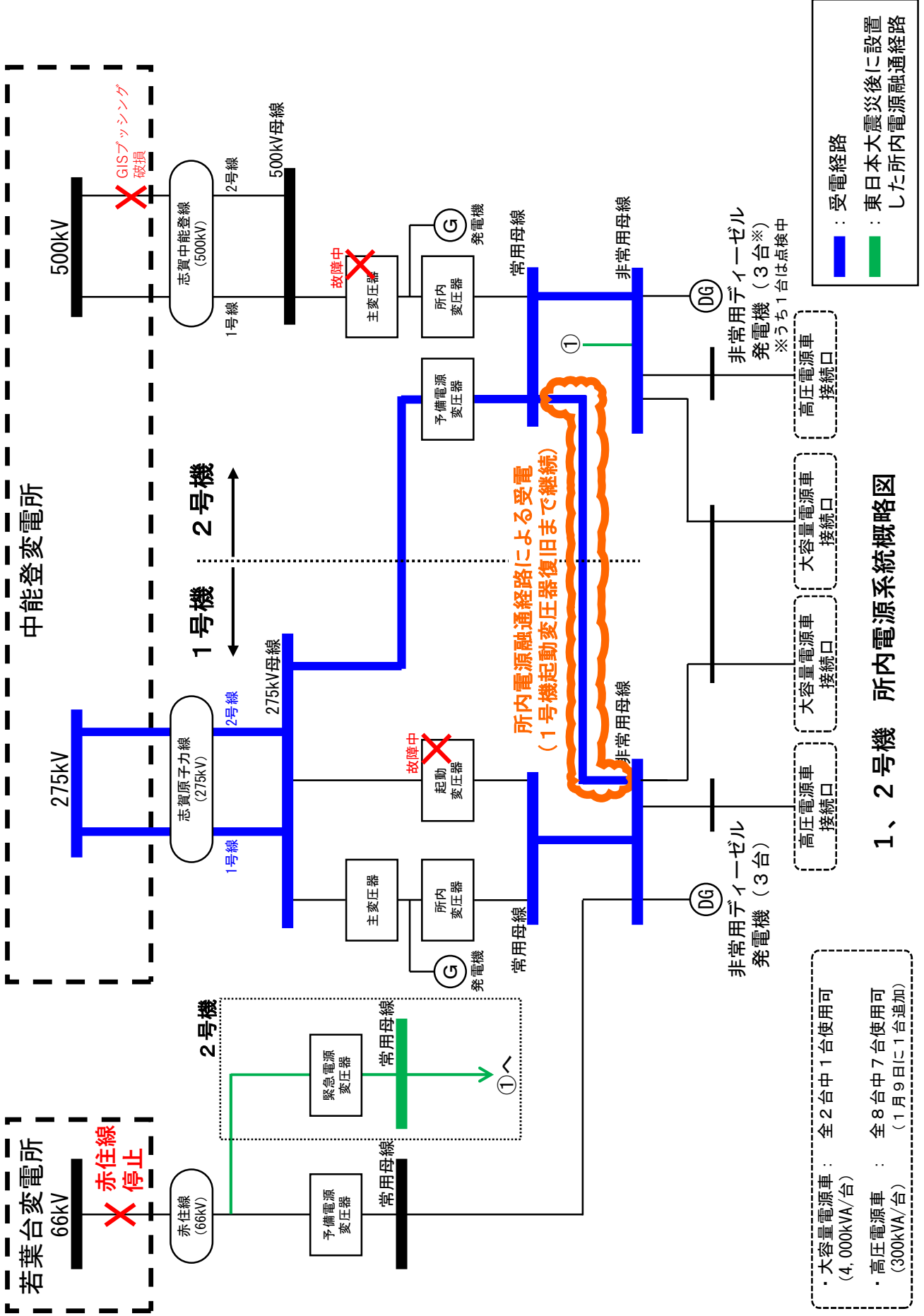


新しい電線を
圧縮接続管にて
接続、割込み



赤住線補修時の受電状態（1、2号機：275kVより受電）

添付資料2
(2/2)



1、2号機 所内電源系統概略図

News Release

令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について（第9報）

2024年1月13日
北陸電力株式会社
北陸電力送配電株式会社

志賀原子力発電所は、1、2号機（定期検査により停止中）とも、外部電源や必要な監視設備、冷却設備および非常用電源等の機能を確保しており、原子炉施設の安全確保に問題は生じておりません。また、発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

1月12日にお知らせした、志賀原子力発電所に送電する赤住線(66kV 1回線)において確認された、絶縁用碍子の欠損(1箇所)、ジャンパ線(鉄塔前後の碍子装置間をつなぐ電線)の素線切れ(1箇所)の交換作業について、本日(1月13日)7時25分に着手し、11時47分に完了しました。

この補修の完了により、外部電源3回線(赤住線(66kV 1回線)および志賀原子力線(275kV 2回線))が受電可能な状態に復帰しました。

引き続き発電所設備全般の詳細な点検を継続し、発電所の安全確保に努めてまいります。今後、詳細な点検の過程で新たな不具合が確認された場合は、お知らせしてまいります。

以上